

高野谷戸遺跡の発掘調査を実施しました。

はじめに

上里町立郷土資料館では、昨年度の2020年12月7日から2021年3月31日までの間、高野谷戸遺跡第4次発掘調査を実施しました。約4か月間にわたる長丁場です。

高野谷戸(たかのやと)遺跡は、大字五明(ごみょう)から帯刀(たてわき)にかけて広がる「五明遺跡群(ごみょういせきぐん)」の一つです。周辺は昭和から平成にかけて発掘調査が何回も行われており、一帯は古代の人々が暮らした大集落であったことが判明しています。

調査してわかったこと

今回の調査は、上越新幹線高架橋の北側、約3,000㎡の区画で実施しました。この調査で竪穴式建物が計31軒発掘(写真1)され、その中から古墳時代後期(現在から1500年ほど前)に使われていた大量の土器(写真2・3)やガラス玉、馬の骨等が発見されました。そのため、この場所では古墳時代後期に人々が集団で生活していたことが判明しました。

古代のガラスは青かった

出土品のガラス玉は1点だけ出土したのですが、大きさは7mmほど。光にかざすと美しい瑠璃色をしていることが分かります(写真4)。1500年前の古墳時代後期のもので、使い方は現代のビーズと同様、中央の孔に糸をとおし、ネックレスとして利用していました。きれい!!

どこの馬の骨?

調査で特に興味深かったのは、竪穴式建物の中から馬の骨が発見されたことです。見つかった骨は、上アゴと下アゴで、ほとんどの歯が完全な状態で発見されました(写真5)。現代では馬と聞くと、乗馬や田畑を耕す農耕馬を想像しますが、古代の人々にとって馬は高級品であり、軍用馬として利用されていたといわれています。また、遺跡近くの帯刀古墳群(大字帯刀)や寺浦古墳群(大字長浜)では、馬形の埴輪が出土しています。そのため、慎重な研究をする必要がありますが、古墳時代の高野谷戸遺跡周辺には、馬や馬に乗ることができる人々が生活していたことが想像できます。しかし、どこで育てられた馬なのか、なぜ建物の中に馬が埋められていたのか、どうしてアゴしか見つからないのか、疑問が付きません。

おわりに

4月からは、見つかった出土品の洗浄作業等を行っています。今後は、出土品や現場で作成した図面等の整理作業を行います。どのような発見があるのか、わくわくします。

【参考文献】

白石太一郎ほか『発見・検証日本の古代II 騎馬文化と古代のイノベーション』KADOKAWA 2016年
若狭徹『歴史文化ライブラリー 古代から読み解く古墳時代』吉川弘文館 2015年
渡里恒信「檜前舎人と檜前牧」『続日本紀研究』350号 2004年
上里町史編集専門委員会『上里町史』資料編 第二編 上里町 1992年



写真1：上空からの高野谷戸遺跡
四角いくぼみがすべて竪穴式建物です



写真2：竪穴式建物と大量の土器
建物の中から大量の土器が見つかりました

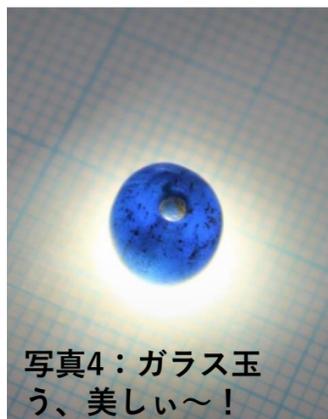


写真4：ガラス玉
う、美しい～!



写真3：古墳時代の土器

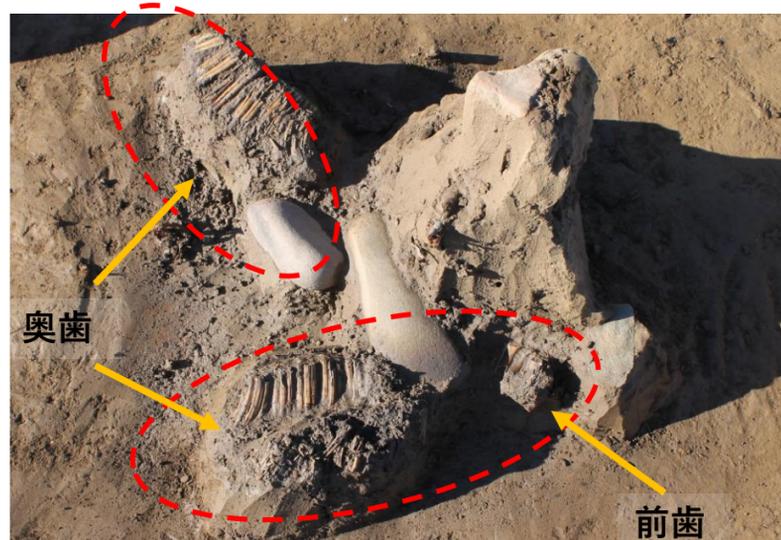


写真5：馬の骨の出土
赤い点線で囲んだ部分がアゴ。写真ではわかりにくいですが、前歯もきれいに残っていました